

## は し が き

言語センター長 鈴木将史

『言語センター広報』第19号をお届けいたします。本年度より言語センター長を拝命いたしました。また、副センター長には吉田直樹教授が就任いたしました。よろしくお願い申し上げます。大島前センター長、副島前副センター長には、周囲の状況が大きく変化する中、2年半に渡り言語センターの運営を担っていただき、誠にありがとうございました。さて、今年の夏は非常に厳しい暑さとなりましたが、大学を取り巻く環境も年を追うごとにその厳しさを増しています。今年はずいぶん政府が各省庁予算の一律10パーセント削減という方針を打ち出し、これが実行されますと、国立大学法人の運営費交付金も相応のカットとなる可能性があります。こうした状況の中でいかに本学特有の良質な教育・研究を維持していくのか、本学も大きな課題を突きつけられているのです。しかし喜ばしいことに、本学は創立百周年を翌年度に迎えますが、外国語重視の教育姿勢は創立時も現在も変わっておりません。今後も本学言語センターは、多言語主義を柱に、更なる外国語教育の充実を図っていく所存です。

それでは本年の言語センターの動向をご報告いたします。施設面では、本年度より本学2号館3階マルチメディアホール1が、AV環境やコンピュータ支援環境が格段に強化された第2LL教室として生まれ変わりました。この教室は、インターネットや各種AV機器を組み合わせて、上級レベルの総合語学教育に対応し、なおかつ従来のマルチメディアホールが持っていたゼミナール・大学院演習用教室の機能も併せ持つ優れた教育施設です。授業での一層の活用を期待しています。教育面では、本年度も「外国人による集中外国語講座」を「英会話」(ジェイミー・ケンブ講師)、「中国語」(高翔講師)、「ロシア語」(アレクサンドル・ポリーソヴィッチ・スペヴァコフスキー講師)、「韓国語」(宣憲洋講師)についてそれぞれ10回開講し、好評の内に日程を終了しました。更に今年は、日本語教育に興味のある日本人の方対象に、日本語の仕組みを教える「日本語学入門」(高野寿子講師)が開講され、この講座も中々の好評を博しました。また、夜間主コースの英語以外の外国語は学外にも解放された「公開授業」となっていますが、フランス語、中国語に受講生が計3名おりました。夜間主外国文学にも公開授業受講生がいましたが、全く登録をしていない一般市民の姿も見られ、この点では少しばかりヨーロッパの大学講義風景に近いものがあったようです。

研究面では、概算要求プロジェクトによる教育開発センターとの共同特定研究「21世紀型市民の育成に向けた学習支援プロジェクト」研究が吉田教授をプロジェクトリーダーとして今年も継続して進められ、4月にはプロジェクト事務補佐員として竹田幸代氏が、7月にはプロジェクト担当助教としてイブラヒム・ファロウク氏が着任されました。両氏の参加により、e-Learning英語教材の開発が一層の進展をみるものと期待されます。プロジェクト本部は言語センター事務室に置かれ、学生スタッフなども出入りしひときわ賑やかになりました。また、本学出身の中学・高校教員と本学教員が参加する第23回「教職研究会」が今年も2号館マルチメディアホール2を会場に12月11日に開催され、活発な議論が展開されました。

それでは各教員の海外出張についてご報告いたします。

個別言語部門ロシア語系山田久准教授は、科学研究費補助金等により、「アパール語、他の諸言語に関する資料収集、及び古代文字、文化比較他に関する資料収集」のため、平成22年8月11日から9月3日まで国立図書館(モスクワ)、公共図書館(サンクトペテルブルグ)エルミタージュ(サンクトペテルブルグ)、エジプト博物館(ベルリン)他へ出張されました。個別言語部門中国語系嘉瀬達男准教授は、小樽商大重点領域推進研究等により、「中国学術史に関する調査、中国における小林多喜二に関する調査、中国近代文献学に関する調査、及び資料収集」のため、平成22年9月1日から19日まで、故宮博物院(北京)、河南省博物館(鄭州)中国国家図書館(北京)、魯迅博物館(北京)北京大学図書館(北京)、中国国家図書館(北京)他に出張されました。個別言語部門英語系羽村高史准教授は、科学研究費補助金により、「Simchas Torah視察及び資料収集」のため、平成22年9月28日から10月5日までUniversity of Massachusetts AmherstおよびChabad Lubavitchに出張されました。個別言語部門中国語系斐崢教授は、教員研究費により、「言葉の表現法に関する調査及び資料収集」のため、平成22年9月1日から22日まで、上海外国語大学、揚州大学及び北京図書館に出張されました。個別言語部門英語系イブラヒム・ファロウク助教は、プロジェクト経費により、10月16日から24日までアメリカ合衆国フロリダ州オーランドで開かれたe-Learning 2010 World Conferenceに出席されました

以上のように、本年も言語センターの教育・研究活動は活発に推進されましたが、残念なニュースもございます。それは、平成15年4月より7年半に渡って個別言語部門英語系助教を務められた横村栄美氏が、平成22年9月末をもって退職されたことです。事務方や学生とのパイプ役を務め、近年特にその存在感を増していた同氏を失うことは、センターにとって大きな損失でしたが、同氏は今後もe-Learningプロジェクトスタッフの学外研究員として、研究の一翼を担う予定です。

また、来年度より個別言語部門杉村泰教教授、応用言語部門高井收教授、比較言語部門君羅久則教授が特任教授とされます。英語系の三先生は長年語学教員の中心的存在として活躍され(君羅先生、高井先生は6年間センター長、副センター長を務められました)、創設から現在に至るまで言語センターに多大な貢献をされました。その御労苦と御尽力に対し、改めて御礼申し上げます。尚、三先生は来年以降も引き続き、言語センター関連の授業・講義を担当される予定です。